

福祉サービス第三者評価 評価結果

【保育所】

聖母の園保育園

横浜市戸塚区原宿 4-35-4

運営主体: 社会福祉法人 聖母会

実施概要	1 ページ
総合評価 (評価結果についての講評)	2～3 ページ
評価領域ごとの特記事項	4 ページ
分類別評価結果	5～12 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	13～20 ページ
利用者本人調査分析	21～23 ページ
事業者コメント	24 ページ

2008年12月19日公表

実施機関: 特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	聖母の園保育園（保育所）	
報告書作成日	2008年11月27日	評価に要した期間 6ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま	

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間:08年6月9日 ~08年9月9日</p>	<p>自己評価票を全職員に配布し、6月9日に正職員全員が、評価機関より第三者評価について説明を受ける。</p> <p>職員会議で趣旨を説明し、非常勤職員にも別途集まりを持ち、説明を行った。</p> <p>期限10日間で、各個人が家に持ち帰り、記入した。</p> <p>毎週1回、集まれる職員が集まり、まずはA・B・Cの集計を行った。</p> <p>集計終了後、1項目ずつ意見交換をしながら、確認・合意をした。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間:08年9月8日 ~08年9月20日</p>	<p>全園児の保護者(77家族)に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡して配布した。</p> <p>各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日:第1日 08年9月30日 第2日 08年10月3日</p>	<p>[第1日]</p> <p>午前:各クラスで保育観察。</p> <p>昼食:園児と一緒に食べながら、保育観察。</p> <p>午後:書類調査。</p> <p>園長・保育士2名に面接調査。この間、適宜保育観察。</p> <p>[第2日]</p> <p>午前:朝は登園の様子を観察。その後、各クラスで保育観察。</p> <p>昼食:園児と一緒に食べながら、保育観察。</p> <p>午後:各クラス担任保育士4名、栄養士・調理師、非常勤職員1名に個別に面接調査。その後、園長・事務に面接調査。</p> <p>この間、適宜保育観察。最後に意見交換を行い、終了。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日:第1日 08年9月30日 第2日 08年10月3日</p>	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施した。戸外での活動も観察。</p> <p>幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

聖母の園保育園は、1968年（昭和43年）に、社会福祉法人聖母会が、近くの国立病院勤務者のために修道院の敷地内に設置した、歴史のある保育園です。園は「聖母の園」の広大な敷地の一角にあり、位置はJR・市営地下鉄「戸塚」駅からバスで約15分の、国道1号線から一本入った所にあります。敷地内には大聖堂、修道院、老人ホーム、クリニックなどの建物があり、保育園の前は一面森や芝生です。園庭は芝生の小高い坂の上にアスレチック、サッカーができる広いスペース、周囲は柿や桜など多くの木々、四季の花々や畑、中庭にはプール、とさまざまに楽しめる空間があり、園舎は平屋で、どのクラスも広く日差しをたっぷり受けて明るく、環境に恵まれています。

保育はキリスト教の精神に基づき、「愛をもって子どもの心身を育み、キリストの精神を基調として、宗教的情操を育てる。また、とくに恵まれない家庭の子どもとその家族の支え、心のケアに努める」を基本方針に掲げています。「モンテッソーリ教育法」を取り入れ、同時に1・2歳児と3・4・5歳児の異年齢混合保育を行っています。園児の定員は1歳児から5歳児まで90人で、平日は7時半から19時まで、土曜日は15時半まで保育を行っています。

高く評価できる点

1、子どもたちは一人ひとり大事にされ、自立に向けて育っています

園は、モンテッソーリ教育法を基本として保育をしていますので、子ども一人ひとりの自主性が大事にされています。登園してから子どもが各自で選んで行う「しごと」（モンテッソーリ教育法の作業）は、好きな場所で好きなだけ取り組み、分からないときやできないことは保育士が援助をしています。最後までやり終えてほめられ、作成したものが展示されたり、自分のケースにファイルしたりしているので達成感もあり、次のステップに進もうという意欲がわいてきます。

食事、排泄、午睡などの生活面でも、主体的に動くように育てられています。乳児期には丁寧に一人ひとりに合わせて対応されているので、幼児期になると一日の生活を自分で考えたり、友達と相談したりして選び、ゆったりと楽しく過ごしています。

子ども同士のけんかも、けがのないよう見守られ、時には保育士が間に入り、丁寧に気持ちを聞いて代弁したりしているので、成長に従い子ども同士で話し合ったり、ほかの子どもが仲介をしたりして、ほとんど自分たちで解決しています。

誕生会は1ヶ月にまとめてではなく、それぞれ一人ひとりの誕生日に、その子どもの誕生と成長を祝う会を催しています。

子どもたちは、一人ひとり保育士にしっかりと受け止められているので、落ち着いていて穏やかです。各自が自立して、自分の思ったことや考えたことなどを言葉で表現することができるので、子ども同士のかわる力が育ち、また異年齢のつながりが多いため思いやりの心も育っています。

2、恵まれた環境の中で保育されています

保育室は南側に面していて明るく、広い部屋の中は教具の棚や奥まった小部屋など、子どもがゆったりと好きなコーナーで遊んだり、「しごと」をしたりできるようになっています。雨天でも思い思いのグループが存分に遊べるホールがあり、廊下の途中には小さな図書室があって、少人数でゆっくり本を選んだ

り読んだりしています。

室内には豊富な教具がそろっており、手作りのおもちゃも多く、保育士たちは周到に細やかな配慮をして、子どもたちの環境を整えています。

園庭では坂道をよちよち歩きで登ったり、広いグラウンドを心行くまで走ったり、サッカーをしたり、落ち葉やドングリなどで遊び、自然のめぐみもたっぷり受けています。草や石の下からコオロギを見つけ、土の中からミミズを探しだして遊び、花を育て野菜を栽培しています。

また、同じ敷地内にある老人ホームと交流を持ち、敬老会にはお年寄りにプレゼントを作って訪問したり、スポーツデイには招待したり、時には園児の立てるお茶を飲んでもらったり、卒園時には贈り物をもったりしています。

3、職員のモチベーションは高く、子どもたちとの信頼関係をしっかりと築いています

乳児・幼児それぞれ2クラスずつありますが、主任は置かずに、月案の作成やクラス運営は各クラスの職員の主体性にゆだねられています。職員一人ひとりが役割を持ち、責任を果たしています。また、保育士は研修を重ね、園の方針やモンテッソーリ教育法に確信と誇りを持って保育にあたっています。

職員同士の関係もよく、保育中も言葉少ない中でも役割分担と柔軟な対応が行われていて、子どもたちを温かく見守り、的確な援助をしています。

保育士は、子どもたちの気持ちを大切に、その場だけではなく、その子どもの背景や深い内面にまで思いを寄せて、受け止めるようにしています。子どもたちへの働きかけは丁寧で穏やかですが、悪いことや危ないことにはすばやく厳しく注意をしています。子どもたちも保育士の言うことをよく聞き、よく理解しています。子どもたちとの信頼関係が確実にできていました。

改善や工夫が望まれる点

1、地域との連携

40年前に地域の要請から生まれた保育園ですが、特に保育園の地域との連携や地域への貢献が言われた近年まで、あえて地域を意識していなかったようです。そのために、地域とのつながりや地域の子育て家庭への働きかけは行ってきませんでした。

今後は、地域のニーズを把握し、困っている人やケアを必要としている親子の把握に努め、恵まれた施設や園庭を開放したり、職員の豊富な専門知識を役立てたりすることが、望めます。また、広い敷地から地域に出向いて他施設等とつながり、地域での園の役割を見直すことや、園の子どもたちの地域社会での経験を広げることなども、検討が望めます。

2、記録やマニュアルの見直し

子どもの発達記録や本部への提出書類などはきちんと作成し、ファイルされています。しかし、配慮を要する子どもの記録や保護者からの相談記録、苦情等の記録などは残されていません。職員同士で情報を共有することは適切に行われており、記録よりも対面での話し合いを大事にしてきました。ですが、職員の個人メモは管理上も問題があり、職員全員が一人ひとりの子どもを理解し、成長発達にかかわるためには、記録されることが必要です。保護者へのフォローや苦情等の蓄積・分析を行うためにも記録は欠かせません。

同様に各種マニュアルについても、職員同士の顔を合わせた連絡やかかわり方を重視して、マニュアルに依存することについては抵抗があるようです。職員が入れ替わっても、急に役割が変わっても園の保育の質が保たれるためには、マニュアルの整備と見直しを行うことが望めます。

評価領域ごとの特記事項

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って、記載しています。

1、人権の尊重

- ◇ 保育の基本方針は「愛を持って子どもの心身をはぐくみ、キリストの精神を基調として、宗教的情操を育てる」とあり、子どもを尊重したものとなっています。
- ◇ 園はモンテッソーリ教育法を中心に保育をしており、子ども一人ひとりを大事にし、職員は子どもたちに穏やかに分かりやすく話しかけ、強制したりせかしたりすることはありません。
- ◇ 個人情報の取り扱いのガイドラインや守秘義務については、職員、ボランティア、実習生に周知徹底しています。
- ◇ 家庭支援が必要な保護者には、特に丁寧に関わり、相談の場所に配慮しています。
- ◇ 職員全員に、虐待の定義などを周知することが望まれます。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ◇ 園はモンテッソーリ教育法を取り入れ、子どもの自主性を重んじ、子どもは遊びや作業を自分で選び、好きな場所で好きなだけ行うことができ、職員は必要な援助を行っています。
- ◇ 食事・排泄・睡眠など生活面については、子ども一人ひとりのペースに合わせて丁寧に身につけており、着実に自立へと向かっています。
- ◇ 自然豊かな広い園庭と明るく広い室内で、職員により周到に準備された環境のもと、子どもたちはのびのびと園生活を楽しんでいます。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ◇ 正職員全員がかかわって保育計画や指導計画を立て、保護者の意向も反映しています。
- ◇ 子ども一人ひとりについて職員間で話し合い、情報は共有していますが、特に配慮を必要とする子どもについての記録、保護者からの相談記録等は未整備です。
- ◇ 苦情対応については、積極的に聞く姿勢を持っていますが、記録をすることが望まれます。
- ◇ 衛生管理、安全管理、感染症対応等のマニュアルが整備されています。

4、地域との交流・連携

- ◇ 40年前に地域の要請で設置された園ですが、特に地域との交流や地域の子育て支援は行われていません。園としても、今後の課題としています。
- ◇ 園と同じ敷地内にある老人ホームとは、交流を行っています。
- ◇ ボランティアには、子どもたちへのサッカー指導や園内外の手入れなどの支援を受けています。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ◇ 園はキリスト教精神に基づいて運営され、園長がリーダーシップを持って理念の徹底に努めています。
- ◇ 重要な意思決定については、保護者や職員に説明をし、意見を聞いています。
- ◇ 中長期の計画は法人本部が立て、園長等の人事についても本部が育成・決定をしています。

6、職員の資質向上の促進

- ◇ 園の基本方針であるキリスト教精神やモンテッソーリ教育法を中心に研修計画を立てて、職員は積極的に参加しています。
- ◇ 主任は置いていませんが、園長が中心となって職員の質の向上に努めています。職員はモチベーションが高く、園の保育方針に自信と誇りを持って保育にあたっています。
- ◇ モンテッソーリ教育法の実習施設として、学生、保育士、教師など多種多様な実習生を多く受け入れています。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。









「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある


評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 基本方針は、「愛をもって子どもの心身を育み、キリストの精神を基調として、宗教的情操を育てる」とあるように、子どもたちを尊重したのになっています。また、基本方針について職員会議などで話し合い、正職員はよく理解しています。職員の朝礼でも、歌と祈りから始まり、連絡事項の中には、その日が誕生日の子どもを紹介なども含まれていて、一人ひとりの子どもが大切にされています。非常勤職員は、書面が渡されたり、会議録を閲覧したりしていますが、全職員の基本方針への理解が確認されることが望まれます。 保育計画は、保育目標や基本方針に基づき作成され、保護者の実情も考慮されています。 保育計画には子どもの意思も反映され、デイリープログラムが作成されていて、日々の保育の実践に活かされています。
<p>- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との面談や提出された書類により、入園前の子どもの状況を把握して、入園後の保育に活かしています。 入園後の3段階の短縮保育(ならし保育)については、入園前に「しおり」や口頭で知らせています。実施については、子どもや保護者の状況にも配慮しています。 1、2歳児混合クラスで、1歳の新入園児は温かく迎えられ、柔軟な対応をされています。 子ども一人ひとりに連絡ノートがあり、活用されていて、保護者からの声も指導計画の見直しに反映されています。 子どもの発達や状況に応じて、指導計画を立て、随時、実践、評価、見直し、修正をされていて、保護者にも伝えていきます。

<p>- 3 快適な施設環境の確保</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・広い園庭と園内は清掃が行き届き、保育室は棚の隅々まで整頓され、随所に花が飾られています。 ・子どもたちは、陽光を十分取り入れられる庭や室内で、遊んだり作業したりしています。 ・保育者の声や音楽は、場所や目的に合わせていて、落ち着いた雰囲気 が保たれています。 ・各トイレに温水シャワーの設備があり、いつでも使えるようになっています。トイレの使い方も、履物をそろえるなどきちんとしていますが、雨天時は構造上臭うこともあるので、さらに換気に留意することが望まれます。 ・保育室が広く、小部屋や教具棚で区切られたコーナーなどが工夫されています。そのため食事と午睡の場所を分けたり、子どもたちが好きな場所を選んで作業したりできるので、自然に小集団で過ごしています。
<p>- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児の個人記録には指導事項も書き込み、その見直しもしています。幼児についても特別な課題があれば関係者で話し合い、支援の見直しもしています。さらに個別指導計画を立て、職員が共有することが望まれます。 ・園児全員に連絡ノートがあり、園と家庭の間でよく活用されています。園での様子や健康診断や身体計測の結果についても、そのつど家庭に知らせています。
<p>- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に配慮を要する子どもを受け入れたときは、職員会議などで話し合い、情報を伝えたり学習したりして、その子どもに応じた対応に努めています。さらに記録が全職員で共有されることが望まれます。 ・障がいのある子どもの受け入れについて、必要があれば専門機関の助言を受け、その子どもに応じた対応をしています。ほかの子どもに対しても、聴覚障がいの子どものとのコミュニケーションのために、手話を教えるなど配慮をしています。 ・アレルギー疾患のある子どもについても、情報を得て、その子どもに合う対応を心がけています。 ・食物アレルギーのある子どもには、除去食を提供していますが、代替食は保護者の了解のもとに、子どもが家庭から持参しています。さらに安全に留意した代替食を、園で提供することが望まれます。 ・外国籍などで日本語をよく理解できない保護者には、同じ国の保護者に聞いたり、助けてもらったりしています。子どもに対しても理解できるように個別対応をしています。
<p>- 6 苦情解決体制</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情対応マニュアルがあり、第三者委員に直接苦情を申し立てることができます。 ・保護者に対して、意見箱、懇談会、アンケート、連絡ノートなどにより、進んで要望や苦情を聞いて、対応しています。 ・要望・苦情を園長自らが受け付けていて、園長は日頃から気さくに声をかけ、話しやすい雰囲気を作っています。 ・さらに職員へのマニュアルの周知の徹底や、権利擁護機関など他機関の苦情解決窓口の保護者への紹介などが望まれます。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="161 344 472 383">- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは、好きな場所で、自分で教材やおもちゃを選び、作業したり遊んだりできる時間が十分に確保されています。 ・モンテッソーリ教育法を取り入れ、子どもの選ぶ作業を「しごと」と呼び、保育士は、子どもたちがそれを成し遂げられるように見守り、必要な場合には手本を見せたり、助言したりしています。 ・子どもたちは、作業でも遊びでも、仲間と過ごすことも、一人でいることも自由に決めることができ、グループは固定していません。 ・毎日、クラスで歌、リズム、紙芝居、誕生日の子どもがいると誕生会など一斉活動をする時間もあり、みんなで過ごす楽しさとともに、ルールを守り社会性を学んでいます。 ・広い園庭には樹木や草花が多く、トマト、ナス、キュウリなどの野菜を育て、アヒルの飼育もしています。保育室でも、カメ、金魚、昆虫などを飼育していて、動植物とのふれあいには申し分のない環境が用意されています。 ・同じ法人内の老人ホームの利用者や、訪れる小学生などとはよく交流をしています。さらに、年長の子どもたちには、安全に留意しながらも、園外での地域交流の機会を作ることが望まれます。 ・外遊びでは子どもたちも保育士も、好きな帽子をかぶるなど紫外線対策をしています。雨天時もホールで体を動かすこともでき、異年齢で遊びながら、自然に健康増進が図られています。 ・保育士は研修に努め、子どもたちを適切に支え、子どもたちに信頼されています。子どもたちも、異年齢クラスの中で刺激し合い、思いやりや助け合いの気持ちが育っています。

- 1 保育内容[生活]



- ・給食に関して子どもたちは、給食の食材を見たり、配膳を手伝ったり、自分が食べられるだけを盛り付けたりしています。幼児クラスでは、当番の子どもが保育士に見守られながら食事の準備を進め、給食に主体的にかかわっています。
- ・保育士は、盛り付けが多すぎたり少なすぎたりする子どもには声かけをしています。強制することはありません。
- ・子どもたちが小グループごとのテーブルに花を飾り、食器も強化・耐熱のガラス素材のものが使用され、食卓の雰囲気作りがされています。
- ・栄養士や調理師は、旬の素材に配慮したり、調理方法を工夫したり、給食時の子どもの様子を観察したりして、おいしく食べきる給食の提供に努めています。家庭に向けて、献立表や人気のある献立のレシピの提供もしています。
- ・給食と午睡の場は保育室内で分かれていますので、一斉に午睡に入ることなく、子どものペースや発達段階に合わせています。年長児は夏以外、午睡をしていません。
- ・トイレトレーニングは、子どもの発達状況や排泄リズムに合わせて、家庭と連携して進めています。おもらしをした子どもにも、さりげなく素早く対処しています。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



- ・子どもの健康管理に留意して、必要に応じて園での健康状態を連絡ノートなどで、保護者に伝えています。
- ・健康診断や身体計測の結果は、そのつど保護者に伝えています。
- ・食後の歯磨き指導は、子どもに応じた支援をするとともに、研修を受けた保育士が一斉活動でも指導するなど、力を入れています。
- ・感染症の発症についての情報を受けると、掲示板で保護者にも知らせています。保育中に発症したときは、すみやかに保護者に知らせますが、保護者の事情と子どもたちの両方に配慮しています。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]



- ・衛生管理はマニュアルに基づき、適切に行っています。
- ・嘔吐処理などのマニュアルは、保育室にも掲示され、すみやかに対応できるようになっています。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]




- ・安全管理に関するマニュアルの内容は、職員に周知されていて、事故や災害の発生時の緊急連絡体制が確立されています。
- ・毎月、地震・火災に対する避難訓練を実施しています。
- ・事故やけがについては、連絡体制が確立されているとともに、子どものけがについては、保護者に知らせ、対応に配慮しています。
- ・登降園時間以外は玄関を施錠するなどの安全対策をしていますが、法人の敷地が広いため、さらに侵入防止対策の検討が望まれます。



- 3 人権の尊重






- ・子どもの気持ちや発言は、最大限受容されていて、子どもたちは職員から温かい声かけをされ、呼び捨てにされることはありません。
- ・園では、自分で選択し、自立をめざし創造性を育てるモンテッソーリ教育法を中心に保育をしていて、子どもたちは、強制されず自分の選択した作業に集中し、保育士に見守られています。
- ・保育室内の思い思いの場所にテーブルが置かれ、子どもは自由に場

	<p>所を決めることができます。また、部屋のコーナー、図書室、廊下のコーナーなど、自由に過ごせるところがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の取り扱いのガイドラインや、守秘義務については、職員、ボランティア、実習生に周知しています。 ・虐待が明白になったときの連絡・支援体制は考えられていますが、さらに職員で共有することが望まれます。 ・子どもたちは、遊び、順番、当番、グループ分けなど、自然に男女混合になっています。保育士も必要のない男女の区別はしていません。
<p>- 4 保護者との交流・連携</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に対して、面談、懇談会、在園のしおり、園だよりなどで、保育の基本方針や日々の保育が理解されるように努めています。 ・子どもたちの一人ひとりに連絡ノートがあり、一方通行でなく、保育園・家庭の双方からよく活用されています。保育士が保護者と送迎時に子どもの様子を話し合うこともあります。さらに、全員の保護者とあいさつを交わしたり、簡単に毎日のクラスの様子を知らせたりする工夫が望まれます。 ・保護者の相談には随時応じていて、相談を受けた職員に園長などが助言もしています。さらに、相談の記録は守秘義務に配慮しつつ職員が共有し、フォローすることが望まれます。 ・保護者は保護者会を組織し、活動を企画したり運営したりしています。園は保護者の自主的な活動のために、場所を提供し、行事への参加や手伝いもしています。




評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・40年前に地域の要請で設立された保育園ですが、積極的に何かを行うという意識はなく、地域との関係を自然にとらえています。また園の周辺だけでなく、園児の背後にあるものも、「地域」と捉えています。 ・したがって、地域住民との交流や相談事業、園庭開放等の地域の子育て支援の事業は行っていません。園としては今後の検討課題としてとらえています。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園として経験も専門性も十分あり、区役所や相談機関との連携もありますが、それを地域に活かすことはなく、地域住民への相談事業も行っていません。歴史もあり、地域にも十分周知されている園なので、今後は園から地域に働きかけていくことが望まれます。




評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ敷地内にある同法人運営の老人ホームとは、プレゼントを作って訪問したり、お茶をたてて飲んでもらったり、卒園時はプレゼントをもらうなど多くの交流を行っています。 ・区内のスポーツチームに園庭を貸し出しています。 ・その他、地域にある施設を使ったり、交流したりする機会はありません。敷地内ですべてが満たされているとはいえ、地域の他施設との積極的な連携によって、園が地域に貢献する機会も増えることと期待されます。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の利用希望者の問い合わせや見学希望については、常時対応し、丁寧に説明をしています。 ・パンフレットや横浜市のホームページを使って、園についての情報提供をしています。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアとして、子どもたちへのサッカーの指導、園内外の手入れなどに外部の人の支援を受けています。また、中学生の職場体験も受け入れています。 ・今後はボランティアの受け入れマニュアルの充実と記録の整備、ボランティアを育成する意識を持つことが望まれます。 ・特にモンテッソーリ教育法の実習指定施設として充実しており、毎年学生、保育士、教師など多種多様な実習生を受け入れています。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成として、園長を中心にキリスト教精神、モンテッソーリ教育法の研修計画を立てています。 ・職員はモンテッソーリ教育法のほか、障がい児教育、給食関連等の研修に可能な限り参加し、保育に活かしています。 ・研修の結果・内容は記録され、職員会議や朝礼で報告されていますが、成果を評価して内容を見直すまでには至っていません。 ・非常勤職員は園内研修に参加でき、保育も任されていますが、正職員と非常勤職員間の連携により、保育内容や運営のさらなる充実が期待されます。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・月ごとの振り返りや年度末の職員会議では、指導計画、デイリープログラムの反省を行い、見直しを行っています。給食関係の反省も行われています。 ・外部からモンテッソーリ教育法の講師を迎えて指導を受け、技術の向上に励んでいます。
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は役割分担によって仕事を任され、クラスの運営についても職員集団の主体性に任されています。 ・職員は一人ひとり、自信と誇りを持って仕事を行い、やりがいを感じています。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園はキリスト教精神に基づいて運営され、法や倫理等を守ることを徹底し、職員の倫理も年間の事業計画に明記されています。 ・環境への配慮として、ゴミの分別、省エネに取り組んでいるほか、園庭や周囲の敷地は大木が多く、緑豊かな環境を維持しています。ただし、環境への考え方・取り組みを明文化はしていません。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は広い包容力と強い信念を持ってリーダーシップを発揮し、キリスト教の理念の徹底に努めています。 ・理念は年1回全職員で確認するとともに、毎朝の朝礼で賛美歌を歌い、祈禱を行い、キリスト教の理念の周知を図っています。 ・園舎の建て替え等重要な意思決定については、職員や保護者に説明をし、意見を聞いています。 ・主任はおかず、クラスの職員は対等な関係を重んじ、全員が責任を持って仕事をするような組織としています。したがって現在、スーパーバイザーとしての役割は園長が担っています。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は、法人本部や園長会、行政から園運営に必要な情報を得て、職員にも周知しながら、基本方針に沿った取り組みを行っています。 ・中長期の計画は法人本部が立て、次期園長などの人材についても本部が育成・決定をしています。生じたときには、相談したり、助言を受けたりすることができます。

利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2008年9月8日～9月20日
- 2、実施方法 (1)保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
(2)各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 約50.6%（77枚配付、39枚回収）
- 4、所属クラス 1歳児クラス...10人、2歳児クラス...3人、3歳児クラス...9人、
4歳児クラス...9人、5歳児クラス...8人

ただし同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。

設問ごとの特徴

【問1】保育園の基本理念や基本方針について

園の保育目標や保育方針を「よく知っている」「まあ知っている」との回答を合わせると82%で、そのうちの97%が保育目標や保育方針に賛同しています。自由記入の欄にも、モンテッソーリ教育法や異年齢の混合保育に賛同する声が多くありました。

【問2】入園時の状況について

“見学をしていない”という声も数件ありましたが、見学時の対応や面接についての各項目は85%以上が満足(*)しています。しかしながら、「費用や決まりなどに関する説明」には23%が不満を感じています。費用などの説明が事前にほしかったという声があります。

(*)文中での「満足」「満足度」は、「満足」「どちらかといえば満足」の回答をあわせたもの。

「不満」は、「どちらかといえば不満」「不満」の回答をあわせたもの。(以下同様)

【問3】年間の計画について

「保育や行事の説明について」はほぼ90%が満足で、その計画に「保護者の要望が活かされているか」については、82%が満足しています。ただ、“3月31日が休園日になるのは、勤め先も期末で困っている”との声がありました。

【問4】日常の保育内容について

「遊び」の各項目については、ほとんどが満足度90%以上で高く、特に「クラスの活動や遊び」「自然に触れるなどの活動」については97%以上の高い満足度です。自由意見からも広い敷地やプール、老人ホームとの交流、おもちゃや教具のよさなど保護者からの高い評価がうかがえます。

「生活」についても全体に高い満足度です。特に「給食について」は90%以上が、「基本的な生活習慣など自立に向けた取り組み」については97%が満足しています。モンテッソーリ教育法や一人ひとりに合わせた丁寧な取り組みが、保護者に確実に伝わり評価されています。

他の項目が87%以上の満足を得ているのに比して、「保育中のけがなどへの対応について」は、18%と多くはありませんが不満の声が上がっています。

【問5】快適さや安全対策などについて

「施設の整備」「子どもが落ち着いて過ごせる雰囲気」「感染症への対応」などは高い満足度を得ています。が、「外部からの不審者への備え」については、28%の保護者が不安を感じています。独自の敷地内とはいえ、近年の社会状況を受けて保護者への説明や対応が求められるところです。

【問6】園と保護者との連携・交流について

「保護者からの相談事への対応」「園だよりや掲示による園の様子などの情報提供」については、高い満足度を示しています。が、他の項目については満足度が少し下がり、「話し合いの機会」「行事開催日時への配慮」「送迎時の子どもについての説明」などは70%台の満足度で、さらに「残業などへの柔軟な対応について」は54%と低くなっています。園と保護者の話し合いの機会を求める声や、送迎時にもっと子どもの様子を聞きたいとする声がありました。

【問7】職員の対応について

「子どもが園生活を楽しんでいるか」については、97.5%と大変高い満足度です。「子どもが大切にされているか」「話しやすい雰囲気があるか」「意見や要望についての対応」なども80%以上の満足度で、おおむね良い関係が保たれていることがうかがえます。自由意見には、職員の対応に感謝の声と要望の声が寄せられています。

【問8】保育園を総合的に評価すると

「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせると94.9%という高い評価です。個々については意見や不満はあるけれど、全体としてみると、子どもが大切にされ、園生活を楽しんでいるということで、満足度が高いものと思われま

まとめ

◇ 保護者は、園での遊びや生活面、環境面では大変満足しています。各項目について意見はありますが、全体として子どもが満足して楽しく過ごしていること、生活面のしつけなどもしっかりやってもらっていること、子どもが大切にされていること、などが全体の満足度の高さにつながっているものと思われま

す。今後は費用や決まりについての入園前の説明、不審者対応、子どものけがへの対応、迎えが遅くなる場合の対応などについて、園と保護者が話し合う機会を多くもち、互いの意思疎通を図ることによって、より一層厚い信頼関係が築かれるものと期待できます。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

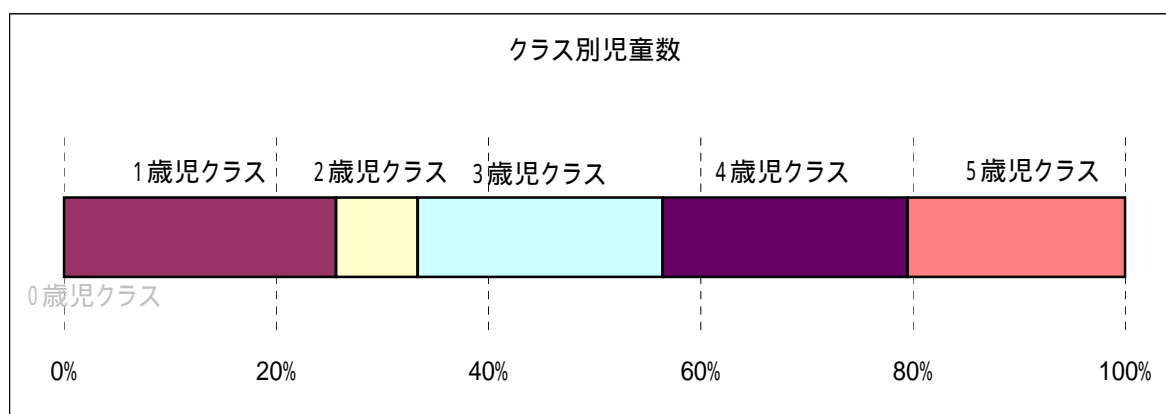
実施期間： 2008年 9月8日～9月20日

回収率： 50.6% （回収39枚 / 配布77枚）

【属性】

クラス別児童数							(人)
合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
39	0	10	3	9	9	8	0

同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入



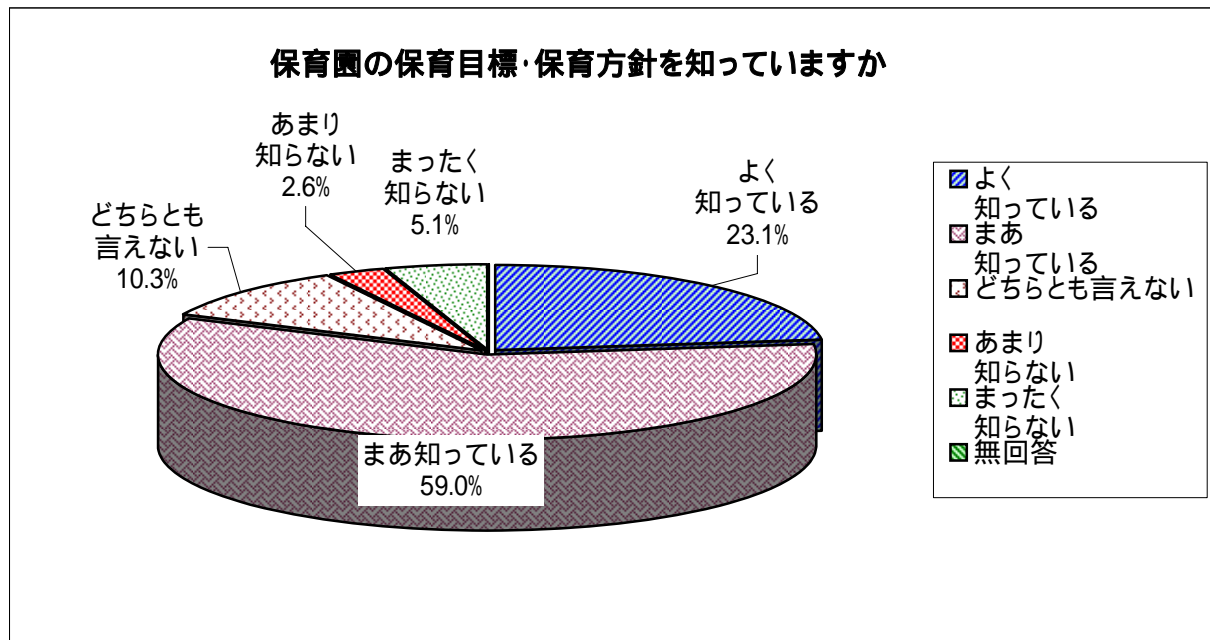
保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	23.1	59.0	10.3	2.6	5.1	0.0	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

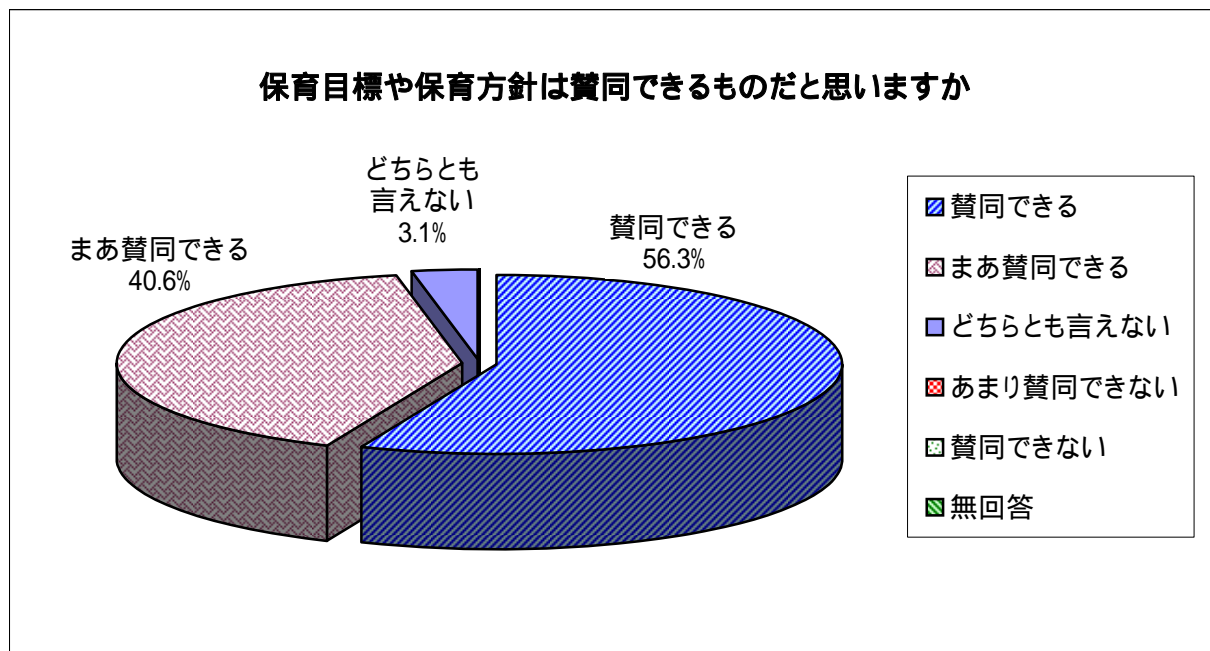


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	56.3	40.6	3.1	0.0	0.0	0.0	100



保育園のサービス内容について

問2 入園時の状況について

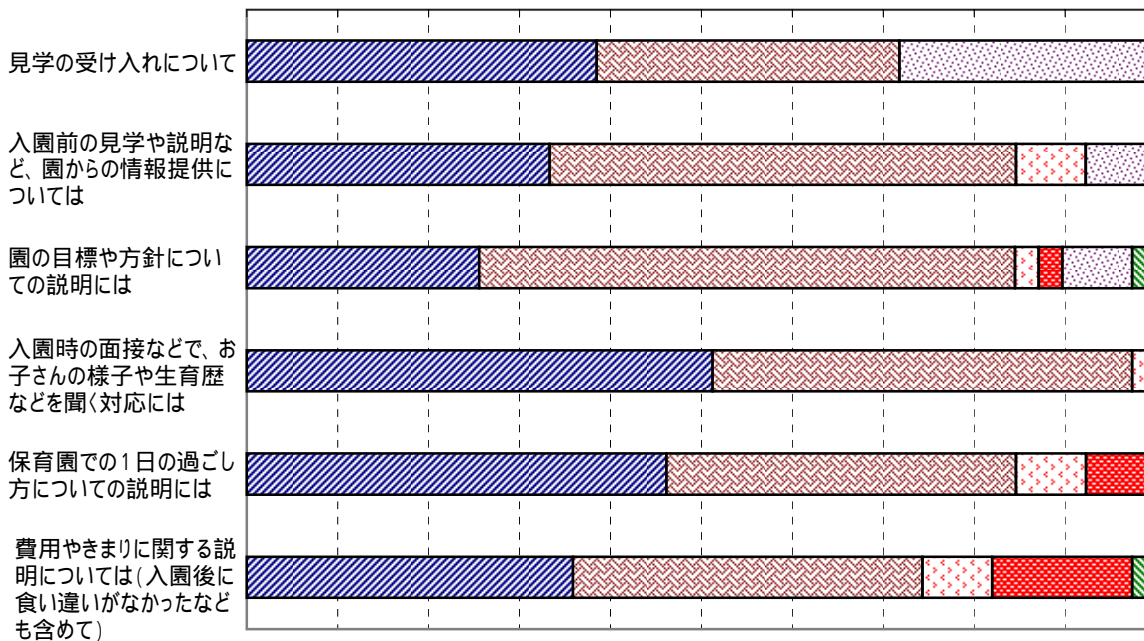
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	38.5	33.3	0.0	0.0	28.2	0.0	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	33.3	51.3	7.7	0.0	7.7	0.0	100
園の目標や方針についての説明には	25.6	59.0	2.6	2.6	7.7	2.6	100
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	51.3	46.2	2.6	0.0	0.0	0.0	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	46.2	38.5	7.7	7.7	0.0	0.0	100
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったなども含めて)	35.9	38.5	7.7	15.4	0.0	2.6	100

入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問3 年間の計画について

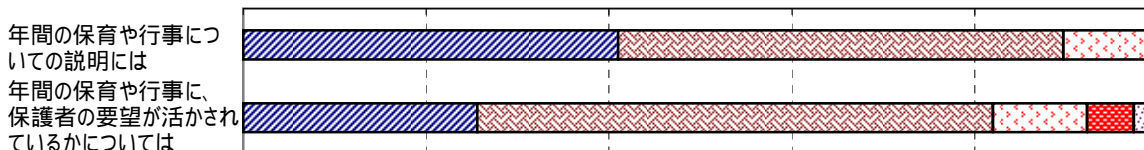
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	41.0	48.7	10.3	0.0	0.0	0.0	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	25.6	56.4	10.3	5.1	2.6	0.0	100

年間の計画について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 20% 40% 60% 80% 100%

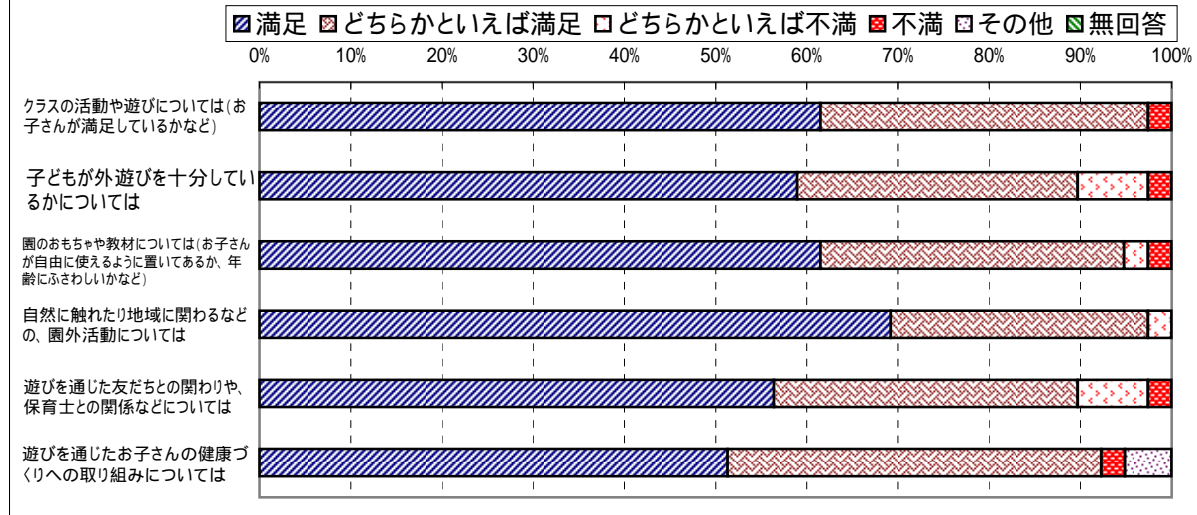


問4 日常の保育内容について

(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	61.5	35.9	0.0	2.6	0.0	0.0	100
子どもが外遊びを十分しているかについては	59.0	30.8	7.7	2.6	0.0	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	61.5	33.3	2.6	2.6	0.0	0.0	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	69.2	28.2	2.6	0.0	0.0	0.0	100
遊びを通じた友だちとの関わりや、保育士との関係などについては	56.4	33.3	7.7	2.6	0.0	0.0	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	51.3	41.0	0.0	2.6	5.1	0.0	100

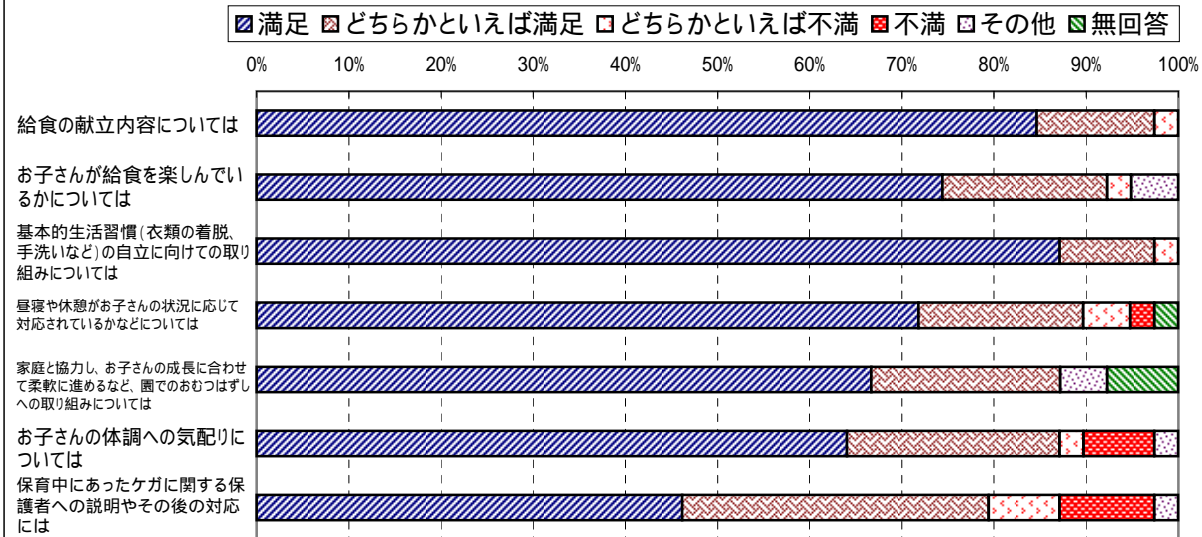
日常の保育内容「遊び」について



(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	84.6	12.8	2.6	0.0	0.0	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	74.4	17.9	2.6	0.0	5.1	0.0	100
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	87.2	10.3	2.6	0.0	0.0	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	71.8	17.9	5.1	2.6	0.0	2.6	100
家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めるなど、園でのおむつはずしへの取り組みについては	66.7	20.5	0.0	0.0	5.1	7.7	100
お子さんの体調への気配りについては	64.1	23.1	2.6	7.7	2.6	0.0	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	46.2	33.3	7.7	10.3	2.6	0.0	100

日常の保育内容「生活」について



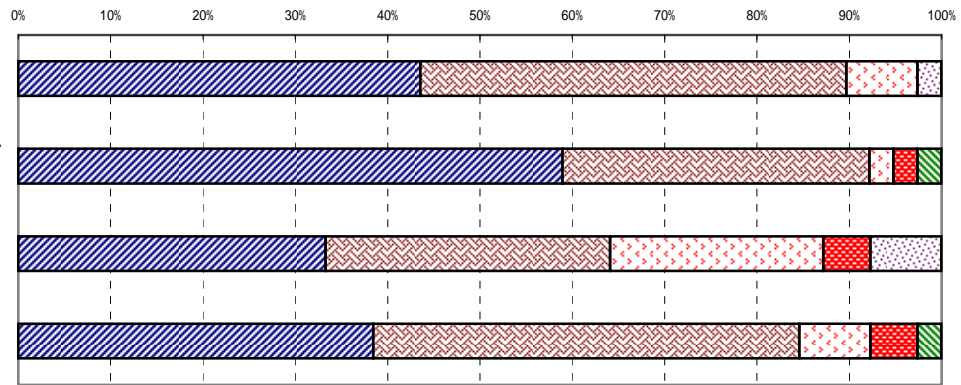
問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	43.6	46.2	7.7	0.0	2.6	0.0	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	59.0	33.3	2.6	2.6	0.0	2.6	100
外部からの不審者侵入に対する備えについては	33.3	30.8	23.1	5.1	7.7	0.0	100
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	38.5	46.2	7.7	5.1	0.0	2.6	100

快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答



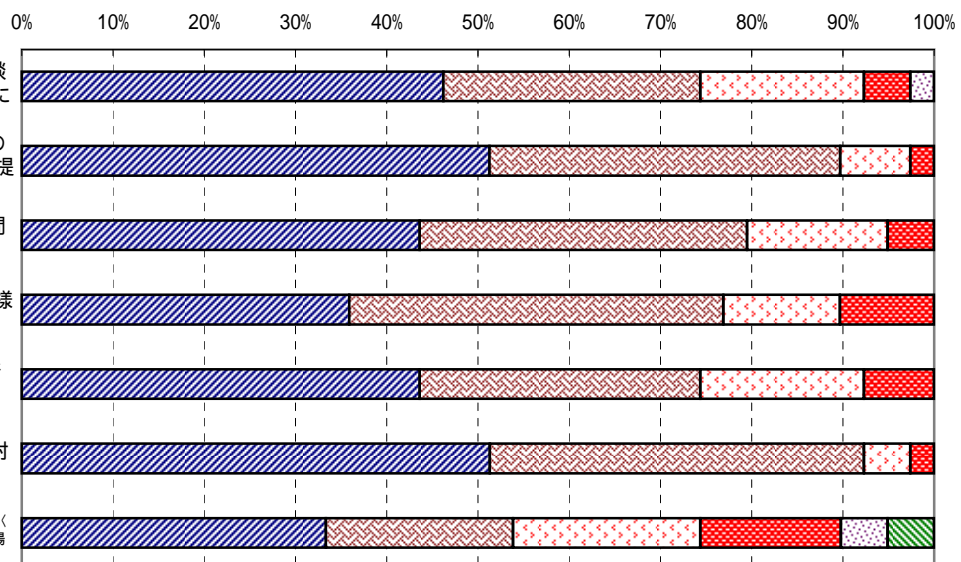
問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	46.2	28.2	17.9	5.1	2.6	0.0	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	51.3	38.5	7.7	2.6	0.0	0.0	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	43.6	35.9	15.4	5.1	0.0	0.0	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明については	35.9	41.0	12.8	10.3	0.0	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	43.6	30.8	17.9	7.7	0.0	0.0	100
保護者からの相談事への対応には	51.3	41.0	5.1	2.6	0.0	0.0	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	33.3	20.5	20.5	15.4	5.1	5.1	100

園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答



問7 職員の対応について

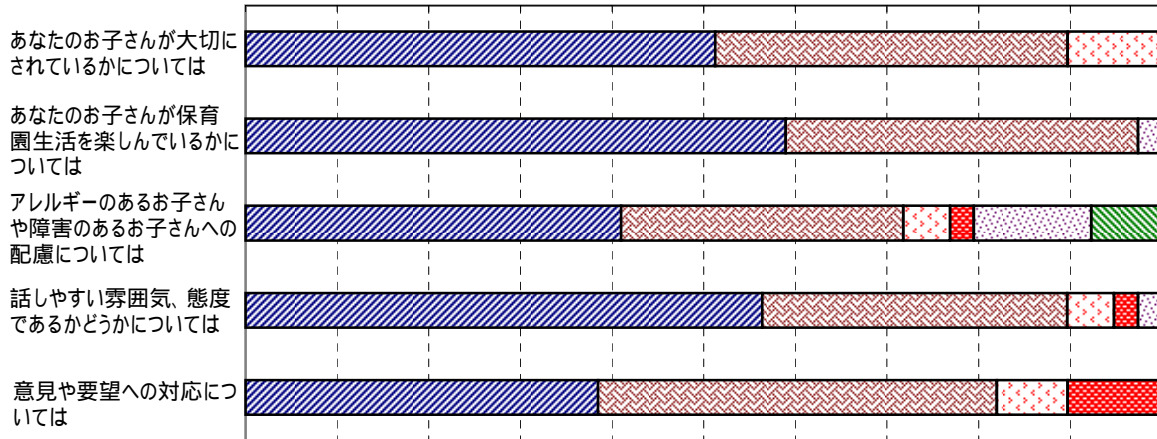
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	51.3	38.5	10.3	0.0	0.0	0.0	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	59.0	38.5	0.0	0.0	2.6	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	41.0	30.8	5.1	2.6	12.8	7.7	100
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	56.4	33.3	5.1	2.6	2.6	0.0	100
意見や要望への対応については	38.5	43.6	7.7	10.3	0.0	0.0	100

職員の対応について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

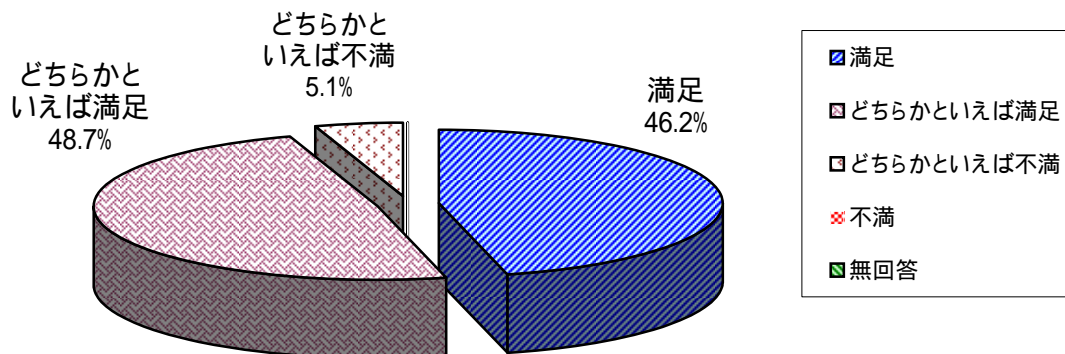


問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	46.2	48.7	5.1	0.0	0.0	100

総合満足度



利用者（園児）本人調査 分析

観察調査 9月30日（火）9:00～17:30 10月3日（金）7:30～17:00

両日とも 9:00～12:40、15:30～16:00 の時間帯を中心に、断続的に保育観察を実施し、給食中などの会話の中で、子どもから適宜聞き取りを行いました。

園では異年齢混合保育（1・2歳児混合2クラス、3・4・5歳児混合2クラス）が実施されているので、本調査もこのクラス編成に基づきました。

1・2歳児クラス

2つのクラスに、1歳からすでに3歳の誕生日を迎えた子どもまで、2歳の年齢の開きのある子どもたちが、一緒に過ごしていますが、泣いている子どもはほとんどいませんし、人なつこくて落ち着いた雰囲気の子どもたちです。

登園後の活動

登園してから、出席カードにシールを貼ったり、所持品の整理をしたり、思い思いのテーブルで朝のおやつ（観察した日は、かっぱえびせんと牛乳）を食べたり、トレイを自分で運んだり、自分でできることを自分で、自然な感じでしています。よくできない子どもには、保育士が声をかけたり手伝ったりしています。

遊びや作業について

園では、子どもの自主性と創造性を育てるモンテッソーリ教育法を保育に取り入れ、子どもたちは自発的な遊びや「しごと」と呼ぶ作業をしています。新入園児も多いこのクラスでは、保育士は、新しいことは一人ひとりに繰り返しやって見せてからさせています。このようにする中で、子どもたちは、この年齢では難しいはさみや毛糸用縫い針の使い方も覚え、その後「自分のしごと」に熱中していくようです。

日常の活動は強制されず、室内では、ままごと、粘土、積み木、パズル、ビーズ、カード合わせ、紐通し、シール貼りなど、好きなところで好きなことをしています。おもちゃや教具は、子どもが取りやすい高さの棚などにきちんと置かれていますし、小さな子どもたちも、使ったものは元に戻してから次の活動を始めます。製作したものは、部屋に飾ったり、ファイルしたりしています。

外遊びでは、自然に恵まれた広い園庭で、遊具で遊んだり体を動かしたりして遊びます。ゆるやかな起伏のある芝生の一角は、この年齢の子どもたちにとって、歩き回るだけでもよい運動になるようです。雨天のときも、ホールでの当てなど体を動かして遊ぶこともできます。

食事について

このクラスでの食事は、料理活動と名付けられているその日の給食の食材の野菜を見たり、洗ったり皮をむいたりすることから始まります。給食はお茶を自分でカップにつぎ、おかずは子どもに応じて保育士がよそったり自分で取り分けたりして、セルフサービスでテーブルに運びます。保育士は、子どもごとに食欲や偏食を把握していて、調節しているようですが、偏食については少しずつ食べられるように声かけをしています。3～4人ずつテーブルに着き、仲良く話しながら食べています。秋刀魚の塩焼きなどは食べやすく、骨なしで小さくしてありますが、1匹丸ごと焼いたものも見せていました。

排泄や清潔について

このクラスでは、まだオムツをしている子どもから自立している子どもまで、いろいろな段階の子どもがいます。保育士は、年度初めには、時間で声かけをしていたそうですが、今は一斉にトイレに誘導したりせず、一人ひとり声かけをして、その子どもに合った支援をしています。上手にできると、「ちゃん、トイレでできました。」と、みんなでほめています。失敗した子どもにはそれとなく着替えさせています。ト

イレの後みんながきちんと履物をそろえたり手を洗ったり、子どもの手に合わせて用意されている布巾や雑巾でテーブルやガラスをふいたりしていますが、これも保育士がきちんとそろえた履物の写真を掲示したり、手本を見せたりする中で、身についたようです。

そのほか

トラブルやけんかが起きても、保育士はまず見守り、やさしい言葉で相手の気持ちを考えさせています。けれども、危険なことには厳しい言葉で対処して、子どもたちにより判断ができるようにしています。

昼食が済んだ子どもから歯磨きをして、仕上げは保育士が見ています。午睡も一斉ではないので、自分のペースで眠りに入るのを保育士が支援しているようです。

保育室や廊下に、季節にふさわしい写真や木の実や花を飾り、楽しい雰囲気作りをしていることが感じられました。

降園前の活動

15:30～16:00の30分間に一斉活動があり、みんなで歌を歌ったり、保育士の話の聞いたり、紙芝居を読んでもらったりしてからお祈りをしていますが、それまで自由時間が十分あったためか、みんなよく聞いています。

3・4・5歳児クラス

このクラスには3歳の年齢の幅がありますし、1歳から入園した子どもと今年入園した子どもでも、ずいぶん様子が違います。全体に年上の子どもが年下の子どもを、前から在園している子どもが新しい子どもを、教えたり手助けしたりして過ごしています。

登園後の活動

登園すると、自分で連絡ノートを出して出席カードにシールを貼ったり、タオルやコップなどの所持品の整理をしたり、トイレに行ったり、慣れた様子でしている子どもが多く、その後、自由な活動をします。友達や保育士と、その日にすることを話し合っている子どももいます。

遊びや作業について

園で取り入れているモンテッソーリ教育法の教具が、保育室内の子どもの目線の棚に、整頓されて置かれています。子どもたちはそこから自由に取り出して、好きな場所に行き、「自分のしごと」(作業)に取りかかります。教具や教材は十分にあり、保育士の手作りのものもたくさんあります。保育士は合間に鉛筆を削ったり、色紙を点検したり、子どもたちが活動しやすいように準備をしています。

室内では、折り紙を友達と見せ合いながら本を見て複雑なものを折っている子ども、保育士も一緒に数人でしりとりをしている子ども、言葉や数字のカードを使っている子ども、編み物や織物をしている子どもなどさまざまです。子どもたちが自主的に活動していますが、保育士は分からないことは手本を見せたり、助言したりしています。制作したものは、飾ったり、ファイルに入れておいたりしますが、その日に作った手提げをうれしそうに持ち帰る子どももいました。

外遊びでは広い園庭で、ブランコ、登り棒などの遊具、缶ぼっくり、大縄跳び、サッカーなど思い思いに遊んでいます。花の水やりやミミズ探し(給食前にアヒルのえさに持って行く)をしている子どももいます。保育士は要所に立ち、見守ったり、縄の回し手になったりしています。観察した日は、園の大きな行事のスポーツディが終わったばかりなので、保育士が用意した「玉入れ」の道具で遊んでいる子どももいました。

食事について

給食は、当番の子どもが身支度を始めてからみんなが食べ終わるまで2時間くらいあり、一つひとつのことを丁寧に行っています。当番はテーブルをふいて花を飾り、台所(調理室)に出席人数を数えて知らせた

り、ワゴン車でおかずを運んだりしますが、異年齢のグループで、年下の子どもフォローをしたり、協力したりしています。このクラスでは、保育士は子どもたちがやり遂げることを忍耐強く見守っているようです。

食事は、自分で盛り付け、好きなテーブルで3~4人ずつ「給食はおいしい」「お母さんのはもっとおいしい」などと、楽しく会話をしながら食べています。野菜嫌いの子どももいますが、保育士は無理強いせず、少しずつ食べられるように声かけをしています。このクラスでは、年齢によって調理方法も違っていて、秋刀魚の塩焼きは、骨を取り片身にしたものと骨付きのものが用意されていますが、年長の子どもは骨付きのものを自然に取り分けていました。

排泄や清潔について

食後の歯磨き、トイレの使い方など、上手にできる子どもがほとんどですし、給食やおやつをこぼしてしまったときも自分で片付けることができます。けれども衣類が汚れてしまったときは、保育士が、着替えるようにそっと促しています。またこの年齢では、友だちに世話をされたくなくても保育士には歯磨きなどをやってもらいたがったり、活動的になってかえってきちんとできなかつたりする子どももいますが、保育士はそれぞれに対応しています。

そのほか

トラブルが起きても、このクラスでは自分たちで解決できるように、保育士はじっと見守っていますし、仲介しなければならぬときも、静かに両方の話を聞いています。けれども、危険なことやマナーの悪いことは、その場で厳しく注意しています。このクラスでの異年齢保育は自然に行われ、年上の子どもは年下の子どもの世話をよくしています。むしろ世話をやきすぎて、トラブルが起きることもあります。そんなとき保育士は、できることは手伝う必要がないことを教えています。保育士の話を子どもたちはよく聞いています。

調査日の午後は、3歳児はほかの部屋で午睡、4歳児は自由活動、5歳児は一斉活動（歯の話）と年齢別の活動が行われました。通常、例えば5歳児は、週2回の一斉活動（1回は園長による神様の話）のほかに外部講師を招いて、月2回の茶道、月1回、4歳児と一緒にサッカーなどに取り組んでいて、年長の子どもが同年齢で過ごす時間も大切にしています。スポーツディでもこのクラスの子どもたちはよく頑張ったようで、廊下に掲示されている写真を、保護者に得意そうに見せている子どももいました。

降園前の活動

15:30からの一斉活動では、歌、手遊び、読み聞かせなどが行われますが、その日が誕生日の子どもがいると誕生会をします。みんなで歌を歌い、その子どもと保育士がろうそくの火をつけながら、保育士がエピソードを話したり、子どもたちが作業で制作したプレゼントなどが渡されたり、家庭からの手紙が披露されたり、その子どもがお礼のお祈りをしたりして、ほのぼのとしています。子どもたちも一人ひとりが大切にされていることを感じるひとときであるようです。

まとめ

園の特徴でもある異年齢混合保育と、自発性と創造性を育むモンテッソーリ教育法は、職員が周到に準備した環境構成のもとに成果を挙げています。子どもたちは、恵まれた自然環境がそこにあるだけでなく、それを活かした行事や活動もする中で、本当の兄弟姉妹のように仲良く助け合い、ときにはトラブルを起こしながら、職員の支援を得て成長しています。

子どもたちは、一人ひとりが大切にされ、自信を持って日常生活に必要な力やものごとをやりとげ発展させていく力をつけています。

事業者コメント

第三者評価の受審の必要性は新しい園舎建替えの計画が起きたときから考えました。法人、園の理念、保育目標、サービス内容に様々な視点から振り返り見直す機会を得ました。職員全員が改めて日々の保育活動、サービス内容等を見直し自己評価をこなし、まとめあげる為に日々の忙しい時間をぬってできるだけ多くの職員で数回集まり話しあう時間を生み出しました。難しく感じながらも皆同一の方向性を見つめるよいチャンスとなりました。常に子どもを中心に私たちは精一杯の保育の心を持って対応し、子ども達は自立する責任ある心を育て互いに成長しております。

評価結果については、新たな気づきと課題を得る事が出来ました。真摯に受け止め、今後、より質の高いサービスの実践に向けて努めていきたいと思っております。また、「特に優れている」と評価された点については現状に満足することなく、更に質の向上に力を入れていきたいと思っております。

最後に暖かく見守って下さいました調査員の皆様に感謝いたします。長時間にわたり細部まで評価していただきありがとうございました。又。お忙しい中アンケートなどにご協力して下さいました保護者の皆様感謝申し上げます。

聖母の園保育園
施設長 細井 和子

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るができます ～

市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/jigyousyajoho/hyoukaall.cgi>

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.rakuraku.or.jp/hyouka/>

特定非営利活動法人



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま 評価事業部

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目 26 番地 洋服会館 2 階

TEL:045-222-6501

FAX:045-222-6502

<http://www.shimin-sector.jp>
